

講義名	(対面)*中国語A		
科目区分	グローバル		
担当教員	森 宏子		
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 2時限	授業形態	
	2020年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2020年度 人間社会学部 観光学科 / 2020年度 人間社会学部 人間社会学科 / 2020年度 経済学部 経済情報学科 / 2020年度 経済学部 経済学科 / 2020年度 商学部 マーケティング学科 / 2020年度 商学部 経営学科 / 2019年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツマネジメントコース / 2019年度 人		
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

主題と概要
<p>この授業では中国語の基礎を学びます。中国語はよく「発音よければ半ばよし」と言われます。発音が命といっても過言ではありません。中国語学習の最初の目標は、正しく発音ができ、聞き取れ、ピンイン(中国語音のローマ字表記)がきちんと読めることです。私たち日本人にとって中国語学習は、漢字を理解できることが大きなメリットですが、逆にデメリットになることもあります。たとえば、漢字を見るとなんとなく中国語を理解した気分になり、発音を大事にしないということがよく見られます。それでは中国語を真にマスターすることはできません。中国語を音でキャッチし、理解できるようになりたいものです。テキストでは基本的に活用度の高い表現を学びます。半年の学習でも、けっこう使える言い回しを学ぶことができます。本学には中国からの留学生がたくさん在籍しており、中国語がいつでも使える恵まれた環境にあります。学んだ中国語をどんどん使って、留学生と積極的に交流してほしいと思います。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 中国語学習を進めていく上での基礎的知識(発音、ピンイン表記)を身につける 基本的な中国語を聞き、質問や状況に応じた応答ができる 基本的な文の意味を理解でき、書くことができる

提出課題
<p>毎回、課題があります。課題は授業で学んだ文法のドリルなどになります。課題提出はRYUKA Portalの「レポート提出」から提出してもらいます。</p>

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック
<p>毎回の課題に対しては、翌週の授業で講評を行います。</p>

評価の基準
<p>次の3点を総合的に判断します</p> <ol style="list-style-type: none"> 平常点(出席状況、授業態度) 課題提出 定期試験 <p>なお、この授業は対面授業を予定していますが、状況によって授業形態が変わる可能性があり、授業の在り方が変われば、評価の割合も変わります。詳しくは、随時授業において説明します。</p>

履修にあたっての注意・助言他
<p>教科書は必ず購入してください。</p>

教科書
<p>はじめよう楽々中国語。 小林和代・韓軍 白水社 2200</p>

プリント資料及び参考文献
<p>プリント資料はRYUKA Portalの「講義連絡」にアップします。</p>

授業計画
<ol style="list-style-type: none"> 第1課 単母音・声調・子音・軽声 第2課 複合母音・鼻母音・発音のまとめ 第3課 何日何日・何時 第4課 お名前は・どちらの大学 第5課 だれ?なに?・これは-です 第6課 いる・ある 第3課-第6課のまとめ 中間試験(状況により実施しないことがあります) 第7課 どこにいる・AそれともB 第8課 どれくらいかかる・-するのが好きです 第9課 いくら・Aよりも-です 第10課 -したい・どこで 第11課 -できる・-していい 第12課 -している・-したことがある 第7課-第12課のまとめ 授業の進度はクラスの状況に合わせて適宜調整します

授業形態(アクティブ・ラーニング)
<p>ア:PBL(課題解決型学習)</p> <p>イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>ウ:ディスカッション、ディベート</p> <p>エ:グループワーク</p> <p>オ:プレゼンテーション</p> <p>カ:実習、フィールドワーク</p>

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p>(授業前)新しい課に入る時は、事前に単語帳(ワークシート)を別途配布します。単語帳は自宅で完成させてください。また、次の授業で学ぶところにざっと目を通すことをお勧めします。それをするだけでも、授業の理解度が格段にアップします。(約1時間半-2時間)</p> <p>(授業後)復習はしっかりと。語学は積み上げ方式です。しかも、みなさんにとって中国語は初めて学ぶことばで、学ぶことすべてが新しく、覚えることがたくさんあります。毎回授業で学んだことを自宅でもう一度振り返り、しっかり理解していく必要があります。授業時間内にできなかったドリルは宿題とします。(約2時間-2時間半)</p>

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考
<p>この授業は「対面授業」を予定しています。</p>